

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀市立小中一貫校北山校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領が小学校で実施され、学力の3要素を資質能力ベースで育成する指導がスタートした。令和3年度は中学校も実施となり、小中一貫校として、児童生徒にどんな力をつけるのか明らかにしながら、具体的方策を共通理解し、指導改善していく。主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、校内研究も充実させたい。 ・地域のよさを生かした学習や交流活動を通して、ふるさとへの愛や誇りを持つ児童生徒を育成する。また、そのことをキャリア教育へもつなげていく。 ・コロナ禍に限らず、思いやりを持ち、人との絆を大切にすることの育成については、引き続き指導強化していく。
2 学校教育目標	「感謝・絆・全力」を合言葉に、小中一貫教育と各種交流活動によって、自主・自立に向かう児童生徒の育成をめざす。
3 本年度の重点目標	<p>①「感謝」— 豊かな心【キーワード: 自他の生命尊重 他人を思いやる心 自己肯定感 キャリア教育】</p> <p>②「絆」— 絆づくり【キーワード: 人間関係力の向上 ふるさとへの愛、誇り 地域連携 小中一貫教育】</p> <p>③「全力」— 学力向上【キーワード: 基礎・基本(学習・生活習慣)定着 思考力・判断力・表現力向上 体力向上】</p>

4 重点取組内容・成果指標			中間評価		5 最終評価			主な担当者 ※左端が主担当			
(1)共通評価項目			中間評価		最終評価						
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による学力向上対策の共通理解と共通実践を行う。読書活動の活性化を図る。	●学力向上対策評価シートに示したマイルストーンの成果指標を達成した教職員を80%以上にする。	・「北山校授業モデル」(つかむー見通すー考えるー深めるーまとめる)を徹底し、児童生徒が見通しを持って進んで学習する授業を全校で取り組む。	B	・全職員による共通実践は、年度当初から継続して全教科等の授業に行うことができている。評価シートイブランの達成状況を各自評価し、下期実践につなげたい。読書活動も学年等に応じた取組を行い、定着化している。	B	・小学部・中学部ともに、12月実施の真学習状況調査結果を分析し、今年度中に取組む課題を整理した上で共通実践につなげた。読書活動の向上、読書活動の活性化においては成果が見られるが、小学部の学習習慣の定着と問題の意図を読み取る力の一部の学年で課題が顕著である。	B	・引き続き、小中一貫校、小規模校のよさを生かして学力の向上を図ってほしい。読書力は重要と考えている。	・学力向上対策コーディネーター(堤、久原)	
	○課題解決に向けて主体的に学ぶ児童生徒の育成を目指す。問題解決的な学習を取り入れた授業改善を行う。	○全国調査「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいたと思えますか。」の質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒を小学部80%、中学部75%以上にする。	○学校評価アンケートで「タブレットPCは、学力向上に有効である。」と回答する児童生徒を小学部90%以上にする。	・授業における単元計画や導入の工夫を行い、「思考の6項目」を取り入れ、児童生徒が主体的に学びに向かう授業づくりの研究を進める。小学部、中学部毎に学期に各1回ずつ、計2回の全体授業研究を行い、論理的思考力を伸ばす研究を進める。	B	・「主体的に学ぶ児童生徒の育成」を目指した授業改善は少しずつではあるが進んでいる。今後は、単元構成の工夫や導入における導入の工夫改善が必要である。児童生徒の状況は「問題解決に向けて自分で考えようとしている」と回答している割合が増え、意欲的である。	A	・1人1台タブレットの有効活用は、全学年で児童生徒が必要に応じて使用を始めており、図書館での資料検索や発表形態の手段として有効な活用方法を模索している状況である。	A	・低学年の子ども達もタブレットを使いこなしており感心した。電子黒板も有効だと思う。	・校内研究(牛島、坂井)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動を行う。	○いじめ・いのちを考える日に、児童生徒会による「北山校みんな仲良し宣言」を実施し、豊かな心を醸成する。	・ふれあい道徳として授業を公開することにより、家庭や地域の方々に学校の取り組みを知ってもらおうと、心の教育においても家庭、地域との連携を図る。	A	・「ふれあい道徳として授業を公開することにより、家庭や地域の方々に学校の取り組みを知ってもらおうと、心の教育においても家庭、地域との連携を図る。」	A	・感染症対策を継続して行っているためふれあい道徳の実施は困難ではあるが、道徳の研修等を行ったり授業を取り扱ったりしている。そのため、教職員、児童生徒と人権教育への意識は高い。しかし、「相手がいやがる言葉」を言ってしまうと回答している児童生徒の割合が1割なので、指導を継続していきたい。	A	・自他の命、他者への思いやり等については特に重点的に指導してほしい。家庭でもその基盤となる面が育つよう、導いていきたい。	・道徳教育推進教師(城、津上)	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実を図る。	○全国調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で、いじめに対して正しい理解をしている児童生徒を小学部97%、中学部95%以上にする。	○いじめ・いのちを考える日に、児童生徒会による「北山校みんな仲良し宣言」を実施し、豊かな心を醸成する。	A	・「ふれあい道徳として授業を公開することにより、家庭や地域の方々に学校の取り組みを知ってもらおうと、心の教育においても家庭、地域との連携を図る。」	A	・「ふれあい道徳として授業を公開することにより、家庭や地域の方々に学校の取り組みを知ってもらおうと、心の教育においても家庭、地域との連携を図る。」	A	・いじめについては、学校と家庭が連携して対応していくことが重要である。小さな学校だからこそ被害に遭う子は逃げ場がなくなるので、そこをしっかり認識して防止に努めたい。	・生徒指導(岩橋、遠藤)	
●健康・体づくり	○「あいさつ・返事」「正しい言葉遣い」ができる児童生徒の育成を図る。	○全国調査「学校のきまりを守っていますか。」について肯定的な回答をした児童生徒を小中共に85%以上にする。	・「あいさつ・返事、言葉遣い」についての指導を、年度初めに全校集会、学級指導、部活動を通して徹底する。また、年間を通して全校集会の際に「あいさつ・返事、言葉遣い」についてふれ、意識の継続を促す。	B	・「あいさつ・返事、言葉遣い」についての指導を、年度初めに全校集会、学級指導、部活動を通して徹底する。また、年間を通して全校集会の際に「あいさつ・返事、言葉遣い」についてふれ、意識の継続を促す。	B	・「あいさつ・返事、言葉遣い」については、中間評価において課題が見られたため、指導や生徒会活動のあいさつ運動を強化してきた。しかし、大きな伸びや児童生徒の変容は見られなかったので評価を「B」とした。場に応じた言葉遣いや進んで行うあいさつについては今後継続した指導が必要である。	B	・「友会役員、学校評議員、地域の方々からは、本校児童生徒の積極的なあいさつをさらに期待されている。	・生徒指導(岩橋、遠藤)	
	○「考え、議論する道徳」の実現を、道徳教育全体と道徳科の授業において図る。	○全国調査「道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。(いつ)と思いますか。」の項目で、肯定的な回答をした児童生徒を小学部80%、中学部75%以上にする。	○学校評価アンケート「道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。(いつ)と思いますか。」の項目で、肯定的な回答をした児童生徒を小学部80%、中学部75%以上にする。	・道徳教育全体計画の内容を全職員で把握するとともに、週1時間の道徳科の授業改善を図る。主体的・対話的な学びになるよう指導過程や発問の工夫を行う。	B	・「道徳の授業改善については教職員が自信をもってできている」と自覚している状況ではない。(できていない→4割)研修を通して授業改善への意識は高まりつつあるので取組を継続していく。また、特に中・後期ブロックの児童生徒が「考え、議論する道徳」の授業に参加しているとの認識100%を目指す。	B	・「考え、議論する道徳」の実現を、道徳教育全体と道徳科の授業において図るため、研修を実施したり各学級で授業や評価を課題にして授業改善を試みてきた。学校評価アンケートにおいて、自分の考えを深めたり話し合ったりする活動に9割の児童生徒が取り組んでいた。と回答している。しかし、教職員は授業づくりや評価において、「できた」と回答している割合が割程度に留まっているので、評価をBとし、次年度へ取組を継続することとした。	B	・「次年度は「ふれあい道徳」を実施し、本校の取組を公開することで一層の理解を図りたい。」	・道徳教育推進教師(城、津上)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●安全に関する資質・能力の育成をめざす。	○学校評価アンケート「児童生徒が事故や事件に遭わないように安全指導を行った。」について肯定的な回答をした教職員を90%以上にする。	・危機管理マニュアルの内容を6月までに全職員で確認する。日頃から事例等を示し、当事者意識を持たせる。	A	・「危機管理(例:個人情報管理、服薬、心肺蘇生他)の事例研修等をごまかして実施してきていた。10月まで本校で大きな事故や怪我などは発生しなかった。安全に関する教職員、児童生徒、保護者の評価も高く、訓練等も改善等を加えながら実施できているので評価を「A」とした。	A	・「学校評価アンケートの「安全に係る指導」について肯定的な回答をした教職員がほとんどである。幸い、児童生徒の大きな事故等はない1年であったが、危機管理については今後大きく引き締めて様々な側面から未然防止に努めたいなければならない。現状に満足することなく、組織的に危機に対応できる体制や諸準備を整えていくことが必要である。	A	・「次年度も、地域との連携や情報共有を常に心がけ、児童生徒の命を守る学校づくりを期待している。	・安全(遠藤、一ノ瀬) 教頭	
	○自ら健康な体づくりをする児童生徒の育成を行う。	○学校評価アンケート「体育の時間や昼休みの遊び(部活動)などで体力がつかまりましたか。」について肯定的な回答をした児童生徒を80%以上にする。	○学校評価アンケート「体育の時間や昼休みの遊び(部活動)などで体力がつかまりましたか。」について肯定的な回答をした児童生徒を80%以上にする。	・合同授業により、団体競技等を積極的に取り入れ、異学年で体力づくりを意識した交流を行う。	A	・「体づくりへの意識」に関しては調査の結果が教職員、児童生徒ともに高かった。感染症対策とつながる活動が定着しつつある。地域行事実施の工夫や保護者の方々への広報で理解を深げていく必要がある。	A	・「自ら健康な体づくりをする児童生徒は多く、学校評価アンケートにおいて、体育の時間や昼休みの遊び(部活動)などで体力がつかまりましたか。」に対しては9割以上の児童生徒が肯定的な回答をした。コロナ禍においても、対策を施した上で、できる取組を継続したからだと考えられている。	A	・「次年度も、家庭との連携を常に心がけ、児童生徒の健康を守り、体力向上を目指してほしい。」	・保健体育(遠藤、岩橋)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減を行う。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限45時間を超えることができた教職員を100%とする。	・定時退勤日(水曜日)を設定(6時半には施設)、徹底する。	B	・業務改善、働き方改革への教職員の意識は向上しており、「上限45時間」の考えが浸透している。しかし、それが実績に結びついておらず、特に1学期は昨年までの超過勤務時間より増加傾向であった。調査結果をみても、約2割の教職員は「努力が必要」と回答している。夏季休業中に研修や環境整備を行い、9月からはやや改善できているので重点取組事項とした。	B	・業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減を目指し、年度当初から様々な取組を継続した声掛けを行ってきた。教職員の意識は向上してきているが、その実績においては個人差がみられる。調査結果からみても、課題とらえている教職員の割合が多いので評価を「B」とした。	B	・「2学期以降は、超過勤務時間の総計が徐々に減っている。また、2月に全職員での研修を行い、「仕事に集中タイム」を設定したり「働き方に関するマイルール」を作成したりして更なる改善を試みている。	・「次年度も、将来に希望もてる児童生徒が育つよう、学力や生活習慣の定着を期待している。」	・副校長
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価			主な担当者			
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言	
○地域との連携	○地域連携活動を推進する。	○全国調査「今住んでいる地域行事に参加していますか。」の項目で肯定的な回答をする児童生徒を小学部70%、中学部60%以上にする。	・「北山ふれあいサマーキャンプ」「ふれあいの冬山まつり」を、より実情にあったものに改善し、参加者全員が充実感を味わえる企画とする。	A	・活動規模としては縮小傾向であったが、アンケート結果は教職員、保護者、児童生徒ともに高評価であった。全国調査「今住んでいる地域行事に参加していますか。」の項目は9割以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。今後内容や時期に工夫改善を加え改めて取り組んでいきたい。	A	・コロナ禍が継続し、思い描いていた地域連携活動を実施することは困難であったが、各種団体等と協議を重ね、規模縮小という形でできるだけ実施を試みてきた。結果、ふるさと北山への愛や誇りを持ち、北山を自慢できる児童生徒が育っている。今後さらにのびのびとした、活動の充実を図りたい。	A	・「今年度は規模縮小で実施できる分は実施でき、児童生徒も喜んでくれた。しかし、これまで本校が行ってきた規模の開催を望む声も多いのでコロナ終息を待ち、交流活動を行ってほしい。」	・ふれあい企画部(副校長、古賀し)	
○小中一貫教育	○小中一貫教育を推進し、9年間を見通した教育課程を編成する。	○学校評価アンケート「小中一貫教育のよさを実感する」について肯定的な回答をした教職員の割合を90%以上にする。	・小中一貫教育のねらいやよさ(9年間の系統性)と小中の連携)を明確にして活動に取り組み、振り返りまで行うようにする。	A	・小中一貫教育の効果は児童生徒の中にも定着してきており、アンケート結果は教職員、保護者、児童生徒ともに高評価である。合同の行事等に明確なねらいをもたせていることが功を奏していると考えられる。カリキュラム工夫改善を更に効果をもたせたい。	A	・9年間の学びの連続性・系統性を生かし、小中一貫教育の効果は児童生徒、保護者、教職員の中で定着している。このことが学校評価アンケート結果にも表れている。今後も、合同の行事等にて明確にねらいをもたせ、9年間のカリキュラムを今一度見直ししていくことを怠らなず、小中一貫校としての強みを高めたい。	A	・「今後も小中一貫校として、地域に誇りをもつ児童生徒が育つよう、バックアップしていきたい。」	・教務主任(久原、堤)	
◎志を高める教育	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むための教育活動を行う。児童生徒一人一人のよさを生かし、志を高めるよう支援する。	◎全国調査「将来の夢や目標を持っているか。」について「当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒を70%、生徒を60%以上にする。	・キャリアパスポートを活用し、各種体験活動としては、児童生徒に自分の生き方・目標を見据えさせる。活動の見直しと中間の振り返り、最終の学びの振り返りと活用」を特別活動中心に行う。	A	・「全国調査「将来の夢や目標を持っていますか。」について「当てはまる」と肯定的な回答をした児童100%、生徒は約80%で、県や全国のデータを上回っている。キャリアパスポートの活用に関して教職員の意識を高める必要がある。	A	・「全国調査「将来の夢や目標を持っていますか。」について「当てはまる」と肯定的な回答をした児童100%、生徒は約80%で、県や全国のデータを上回っている。キャリアパスポートの活用に関して教職員の意識を高める必要がある。	A	・「次年度も、将来に希望もてる児童生徒が育つよう、学力や生活習慣の定着を期待している。」	・志を高める教育、キャリア教育、総合的な学習の時間担当(嶋田、城)	
●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育											
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校として、さらに学力の向上や未来を生き抜く力の定着の実現を目指し、具体的方策を全職員で共有した上で、指導改善していく。主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、校内研究もさらに充実させたい。 ・地域のよさを生かした学習や交流活動を通して、ふるさとへの愛や誇りを持つ児童生徒を育成する。また、そのことをキャリア教育へもつなげていく。 ・コロナ禍に限らず、思いやりを持ち、人との絆を大切にすることの育成については、引き続き指導強化していく。 										